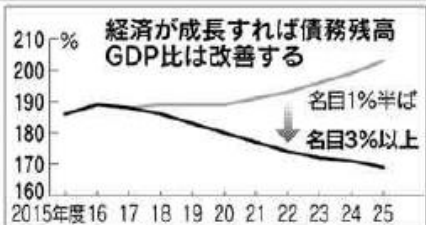


# 首相、歳出拡大に布石

## 新指標採用 低金利で規律に緩みも

政府が9日決定した骨太の方針には、新たな財政目標に国内総生産（GDP）に対する債務残高の比率の「安定的引き下げ」が採用された。財政再建よりも経済成長を重視する安倍晋三首相の意向を反映したもので、歳出拡大に布石を打つとともに、2019年10月の消費増税へフリーハンドを得たとの見方がある。



先立つ会議で「成長と分配の好循環を拡大するため、人材への投資を通じて生産性の向上を図る」と強調した。もうひとつのポイントは財政健全化目標の手直しだ。政府は20年度の基礎的財政収支（プライマリーバランス）黒字化を健全化の国際公約としてきた。だが、首相は「強引にPBを黒字化しても、経済がたがた

になったら元のもくもみだ」などと成長を重視する立場だ。首相は骨太決定の2カ月前から、債務残高をGDP比で測る新指標の採用を周到に根回し。4月10日には自民党の役員会を終え退席しようとする茂木敏充政調会長をわざわざ呼び止め、「経済を

成長させることで財政再建することが重要だ」との考えを伝えていた。新指標は分子の債務残高が長期金利、分母の名目GDPが経済成長率の影響を受ける。通常、経済が成長すれば長期金利も上昇するが、アベノミクスの下では事情が異なる。日銀の異次元の金融

緩和により長期金利が0%付近に張り付き、歳出拡大しても、指標を改善できるのがミソだ。首相の狙いはどこにあるのか。文案の策定に関わった自民党幹部や霞が関の経済官庁の関心はここに集まる。麻生太郎副総理・財務相は記者会見で、骨太にPB目標が併記された点に触れ「（財政再建を指す姿勢は）今まで通り変わっていない」と語る。新指標を掲げても18年度予算編成には影響がな

く、19年10月の消費増税や20年度のPB目標などへの布石だとの見方が大勢だ。名目GDP増加を目的に教育分野などへ歳出を増やしやすい。経済が順調に成長すれば、消費税引き上げも可能になる。万一、低成長にとどまっても、成長を優先するとの理由で増税を延期する理屈にもなる。財政規律派とリフレ派の双方の解釈は割れ、現時点で新指標の使い方を知っているのは首相のみ。新指標が突如出てきた背景には、来年に迫った消費増税の判断があることは間違いない。

### 識者はどうみる

#### 格差解消策手つかず



小黒一正・法政大教授 経済成長すれば財政目標の達成に近づく「債務残高対GDP比」を採用したのは、従来から掲げている「国と地方の基礎的財政収支（PB）の2020年度の黒字化」の目標の達成が厳しくなっているためだろう。

債務残高GDP比は、経済対策を打てば、一時的にGDPが拡大して財政目標達成に近づく。財政規律を緩める面がある。歳出削減の圧力が働くPB目標は来年度以降も維持すべきだ。日銀の異次元緩和で金利を低く抑制できる状況が、財政規律の議論を先延ばしにさせている。

金利が上昇局面に向かう前に、社会保障改革を断行して歳出削減と財政再建を進めないといけない。案案から「薬価引き下げ」を削除したようだが、医療・介護の効率化は踏み込み不足。診療費・薬価の自己負担の拡大や、年金の支給年齢引き上げなど、世代間格差の解消に向けて多くの課題が手つかずだ。

#### 生産性向上は評価



岩本康志・東大教授 少子高齢化などの人口要因で労働需給が引き締まるなか、生産性の引き上げは急務だ。骨太の方針で働き方改革や人材投資に力を入れたのはもっともだ。生産性が向上し、所得が上がれば消費や地域の経済も上向く。

ただ施策が多すぎて、重要なものを盛り込めていない印象がある。数を減らして、それぞれの具体策を掘り下げるべきではないか。今のままでは目標が判然としない。

ビッグデータなどを活用した健康寿命の延伸も必要な施策だが、データを分析して具体的に何をすべきかが不透明。医療・介護費の膨張を考えると残された時間はない。今の政権は抵抗が予想されるものについて、抵抗を乗り越えずに取り下げしてしまう。「検討する」とあるものがどれだけ実現するかが課題だ。今回は5度目の骨太方針だが、過去に作った方針の効果検証も必要だ。

政府は9日の臨時閣議で、第2次安倍政権で5回目となる経済財政運営の基本方針(骨太の方針)と成長戦略を決定した。アベノミクスは2万円台に回復した日経平均株価や堅調な有効求人倍率の成果が際立つものの、経済の体温を示す潜在成長率は向上かない。規制改革などを武器とした成長力のエンジンは不完全燃焼のままといえ、政権が掲げる経済最優先の看板はかすんで見える。

### 金融・財政に注力

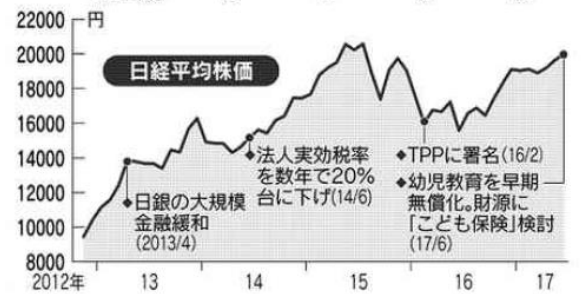
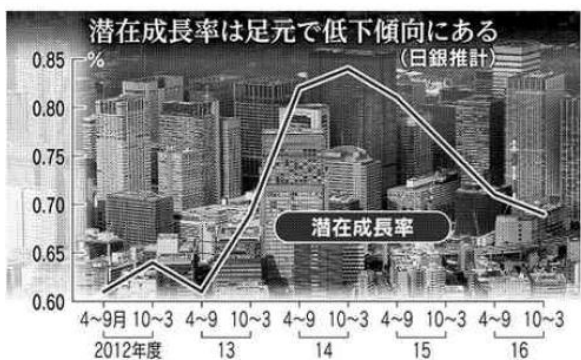
「長期的な安定成長には、成長戦略による労働生産性の向上、潜在成長力の強化が不可欠だ」。政権発足から半年後、2013年6月にまとめた骨太の方針の一節だ。金融緩和、財政出動、成長戦略の3本の矢を束ねたアベノミクスは市場の関心をさらし、日本への投資呼び込んだ。あれから4年。日銀の推計は、日本経済の姿を冷徹に映している。足元の潜在成長率は0.69%。経済の実力は上がるどころか、14年度下期(0.84%)からむしろ下がっているのだ。

この間、3本の矢のうち、政府・日銀が注力したのが金融と財政だった。日銀の総資産は500兆円を超え、長期金利は0%付近に張り付いたまま。財政は5年間で7度の補正予算を編成。投じた国のお金は約25兆円に上った。

BNPパリバ証券の河

## 骨太方針決定

# 「安倍1強」生かせず



## 社会保障・財政「落第」

### アベノミクス5年 経済の力低下

野龍太郎チーフエコノミストは「極端な財政出動などが経済の資源配分をゆがめ、生産性を落とした」と警鐘を鳴らす。成長力が高まるまでの「間の稼ぎ」だったはずの金融・財政に頼るあまり、通信簿をつけてもらって超下げた法人税改革が成長戦略はおさなりました。昨年訪日観光客が2400万人を超えた。日本経済新聞は10項目の経済分野についてエコノミスト10人に5段階の「評価」を付けてもらって、法人実効税率を7%超下げた法人税改革が3.3点と続いた。減税などで収益力は高まったが、企業はカネをため込む一方。3月末で企業の内部留保も390兆円と政権発足時から4割増加。内部留保解消の有効策はみえない。

「及第点」前後の政策が多い (民間エコノミスト10人に聞いた) アベノミクス通信簿、平均点

政策	平均点
観光振興	4.6
法人減税	3.3
経済連携	3.2
金融改革	3.1
第4次産業革命	3.0
エネルギー	2.8
農協改革	2.7
労働市場改革	2.6
社会保障改革	2.2
財政健全化	2.1

(注) 回答者は大和総研・熊谷亮九、BNPパリバ証券・河野龍太郎、野村證券・美和卓、SMBC日興証券・丸山善正、一生命経済研究所・永浜利広、みずほ証券・末広徹、ニッセイ基礎研究所・藤原泰三、日本経済研究センター・岩下真理子、SMBCフレンド証券・岩下真理(敬称略)

人手不足が深刻さを増す「労働市場改革」も厳しい評価だ。解雇の金銭的解決の議論は遅々として進まず、外国人材の受け入れでは研究者ら高度人材のほか、国家戦略特区を活用し家事代行など専門人材にも門戸を開いた。大胆な外国人材受け入れは人手不足緩和の力だが、本格議論を封印。岩盤規制を突破する気概は息切れ気味だ。

改革の「サボタージュ」も見逃せない。政府は働く時間をなく成果で賃金を払う「ホワイトカラー・エグゼンプション」を創設する労働基準法改正案を15年の通常国会に提出。16年春にも制度導入としていたが、2年たった17年の通常国会でも、成立を見送られる。

与党は衆院で3分の2の議席を確保。参院でも自民党が27年ぶりの単独過半数を占める。「安倍1強」の中で与党が同法案に高い優先度を付けられれば、法案は確実に成立するはずだ。先送りには政府・与党に「やる気」がないことが表れた。

ほぼ落第に近い評価が社会保障改革(2.2点)と財政健全化(2.1点)だ。選挙を前に増税を先送りしたり、社会保障の充実を約束したりする「選挙優先」で取り組みが遅れている。

**安保に偏り**

年金、医療などの社会保障給付費は16年度で1兆1800億円。個人や企業の納める税や保険料で賄っているが、給付を抑える手立てはいまひとつみえてこない。現役世代の負担を増やさないためにも、高齢者の負担を増やしたり、医療費を受け取る日本医師会の岩盤に鋭く切り込んだりする姿勢が必要だ。

もっとも、社会保障費の伸びを年5000億円に抑制しているように、(川手伊織、重田俊介)

政権が改革に取り組んでいないわけではない。評価が低いのは「安倍政権のように豊富な政治資源があるならばより大きな改革がなし遂げられるのではないか」との期待の裏返しだ。

豊富な政治資源は高い支持率や国会の議席が何よりの特権だ。2000年以降の歴代政権の内閣支持率の平均値を算出すると、第1次を除く安倍政権は56%と最も高い。「劇場型」で例えられ高い人気を誇った小泉内閣の52%をも4割上回った。

一方、政府が通常国会に提出した法案の数を数えると、小泉政権の平均106本に比べ、安倍政権は70本と約7割にとどまる。法案の内容も郵政民営化など経済分野が多かった小泉政権に比べ、安倍政権は特定秘密法など安全保障分野に偏っているのも特徴だ。

安倍政権は5月28日に首相在職日数で小泉政権を超え戦後3位となった。菅義偉官房長官は記者会見で「政権はどれだけ長くやっているとかがいなく、何をやったかがいちばん大事だ」と意欲を示した。「経済最優先の旗を掲げ続けるからには「経済のレガシー」への期待に応える責務がある。